

あいらの歴史と物語

連絡先：〒899-5421 鹿児島県始良市東餅田 498

発行責任者：始良歴史ボランティア協会
会長 竹之下 洲 一
編集者：広報部 松下 澄行

始良市歴史民俗資料館 Tel 0995(65)1553

第30回 国民文化祭 かがしま2015 in 始良



国民文化祭を振りかえって

社会教育課文化財係 深野 信之

平成27年秋に開催された「第30回国民文化祭・かがしま2015」において、始良市では「歩き・み・ふれる歴史の道」「郷土芸能の祭典」「邦楽の祭典」の3事業が実施されました。このうち10月31日・11月1日の「歩き・み・ふれる歴史の道」は、「始良の三坂(白銀坂・掛橋坂・龍門司坂)」をはじめとした多種多様な歴史・文化を体感していただくことを目的としました。

参加者は1日目88人、2日目73人で、市内・県内からの参加者が大半を占めましたが、中には京都府亀岡市からの参加者もおられました。

イベント前日はあいにくの雨で、石畳坂の登り降りが危惧されましたが、参加者の強い要望と、当日早朝の現地確認により予定どおりの行程で実施しました。結果的に両日も天候に恵まれ、「始良の三坂」を踏破することができましたが、苔むした石畳道は滑りやすいため、用意

した竹杖を使って、ゆっくりとしたペースを保ち、スタッフが注意喚起しながら進みました。

史跡ガイドは、始良歴史ボランティア協会と観光ボランティアガイド協会が担当し、参加者約20人に2名ずつが付き、丁寧に解説しました。この他にも事業の運営に関しては、多くのボランティアの参加・協力をいただきました。

本事業では、史跡めぐりに郷土芸能の観賞を組み合わせ、地域が育んだ文化にふれていただくことができました。「高尾野兵六踊り」のダイナミックな動きとコミカルなストーリー、桜島を背景に響いた「木田太鼓踊り」の鉦・太鼓の音は、参加者に強い印象を与えたようです。

「おもてなし」として、特製弁当の提供、白金酒造の焼酎や特産品の販売、加治木まんじゅうのふるまいなどを行い、始良市の魅力を発信することもでき、実りある大会となりました。

自主研修(1)

北山中甕と甕氏

竹之下 洲一



中甕のなかこしき小高い丘上の広場に“甕こしきどんの墓”と呼ばれる墓石群があります。その一つは甕氏3代武義たけよしの墓といわれています。

13世紀の終わり、帖佐平山城に入った平山了清りょうせいの曾孫武秀たけひでは、14世紀中ごろ甕氏を名乗り、中甕に甕城を、さらに守りを堅固にするため、若宮神社の南側に下城を、この中間に中城を築き支配を強めていきました。

中世14・15世紀の甕氏は、3代武義たけよしから5代武豊たけとよにかけ、多くの戦いに参加し戦果を収めました。6代武徳たけのりの享徳年間(1452~55)、平山氏とともに島津季久すえひさに降伏し、8代武英たけひでのころには北山を離れ帖佐に移住しました。

中甕には、甕氏に関わりのある中世の史跡や地名が数多く残っています。

北山堂山地区

橘木 國丸



堂山地区

堂山は、昔は大木の茂った場所で船の櫓木を切って出していたところでした。それに因なまんで「櫓山」とっていたのが、いつしか訛なまって「どう山」となり、堂の字を当てて書くようになったと伝えられています。

昔から放牧が盛んで、昭和の中ごろまでは、堂山北部の大平牧場に牛が放牧され、炭焼きも盛んに行われていました。

木場には精錬所がありましたが、今は鉾こま津の捨て場で鉄山と呼ばれている山があるだけです。山花さんげにあった金山も廃坑になっています。

戦後は人口が急増しましたが、現在は高齢化が進んでおり、店1軒も無く、昭和61年(1986)に新築された農協の堂山出張所も、平成16年3月に閉鎖されていることから、過疎化が進んでいるようです。

戦国島津氏女性家譜

— 家譜作成の意義について —

恒吉 一洋

島津氏は、文治2年(1186)初代忠久が島津荘の下司職として下向してから、江戸時代の終わりまで、実に682年もの長きにわたり奥三州(薩摩・大隅・日向の一部)を支配しました。

長い年月の間には、存亡に関わる事件や戦いなどもありました。特に応仁の乱以降の戦国時代には、他国との争いはもちろんのこと、支族の増えた島津家内での領域や継嗣をめぐる争いなども多発しました。

戦いに明け暮れる領主たちのもとで、その妻や娘たちはどのような状況下に置かれ、どのような人生を送ったのでしょうか。

領主やその嫡男など、男性の活躍・生涯を学ぶ本や資料は多くありますが、その妻や娘など、女性に関する本や資料はわずかです。

これらの資料を集め、該当の女性に的を絞る家譜(家系)を調べてみることも、歴史を学ぶ人にとって意義あることではないかと思えます。

自主研修(2)

良久屋敷跡

橘木 雅晴

蒲生町良久集落には良久屋敷跡が残り、竹林の中に無記名の石碑が建っています。

天文24年(1555)、北村城攻めで大敗し命からがら敗走した島津貴久は、薄原の川中島から面貫坂を登って、豪農の家で一休みし接待を受けました。もう追手も来ず一息ついて楽になったので、以後このあたりの台地を良久ノ原、豪農の家を良久屋敷、坂の途中で鎧の面を脱いで小休止したので、面貫坂と呼ぶようになったといわれています。

また貴久の子義弘が、後年狩りに来て良久屋敷で休憩した折り、利発で美しい豪農の娘「小松姫」と出会った物語が伝承されています。

良久屋敷跡の右前方雑木林の中に、文化12年(1815)に建てられた「伊進様御休所」と刻まれた石碑が残っています。

(伊進は惟新のこと)



良久屋敷跡の石碑



「伊進様御休所」銘

大山祇神社

迫村 あけみ

大山祇命は、「古事記」ではイザナギとイザナミとの間に生まれたとされています。名前のおり山の神様ですが、別名「和多志大神」ともい



海の神様でもあります。山の神として、古くから林業や鉱山関係者に崇拝されてきました。

『蒲生郷土誌』には、「薄原一社・西浦五社は全て義弘の命により建立す」とあり、また『三国名勝図会』には、各社を「松齡公巡視の時、崇め給へりと云い傳ふ」と記述されています。

この白男地区の大山祇神社が「薄原一社」に該当します。島津義弘が慶長の頃、狩りに来て建立させたということです。

旧大山小学校の向かいの山裾に鎮座し、杉林に囲まれた佇まいは、まさに山を守る神様そのものです。

球磨の女異聞

濱口 純則

相良家17代当主晴廣と側室「お東様」との娘



隈媛神社

「亀徳女」は、永禄7年(1564)ごろ飯野城城主島津義弘と政略結婚します。

その後異母兄妹の18代相良義陽が菱刈氏と手を結んだため、両家不仲となった永禄11年(1568)離縁となり、球磨へ帰り奥野の地頭上村新左衛門と再婚します。夫新左衛門は相良家のお家騒動に巻き込まれ、後年人吉原城で殺害されます。

「亀徳女」は夫の菩提を弔うため尼になりますが、藩主を凌ぐ勢力を誇っていた家老の相良清兵衛から懸想され、意のままに成らぬと疎まれ、さらに経済援助を受けられず没したといわれています(餓死したとも)。元和3年(1617)のことです。

この話と加治木隈媛神社の宝現大明神を、どのように繋げていいものか頭を悩まします。

歴史民俗資料館所蔵品紹介

建昌城跡の米丸マール火山灰(パネル)

藤崎 幸雄

米丸マールは、蒲生町米丸にある火山地形のことで、東方約2kmにある住吉池マールとほぼ同時期の約7200～7300年前に噴火しました。



この火山灰は東南方向に降り、建昌城跡の地層には米丸マールの火山灰が2m以上も堆積しています。

マールとは、爆発的な噴火によって生じた丸い輪郭を持つ火口のことです。米丸・住吉池マールの噴出物(岩石)はすべて玄武岩だそうです。

なお、平成15年(2003)には、活火山はおおむね過去1万年以内に噴火した火山、および現在活発な噴気活動のある火山と定義され、米丸・住吉池マールも活火山に認定されています。

歴史用語解説

竹之下 洲一

『島津荘』 日向・大隅・薩摩三国にまたがる近衛家を本所とする荘園。万寿2年(1026)ごろ大宰大監平季基が、日向国島津院(現在都城市)を中心とする付近の荒野を開発し、宇治関白藤原頼通に寄進したのが始まり。

『下司』 荘官の一つ。預所などを上司というのに対し、現地にあり荘園を管理する者。案主・公文などがこれに当たる。在地の有力者が任命されることが多く、やがて武士化していく。

『北村城』 蒲生町北にあり、矢筈城ともいう。中世蒲生城の支城で、蒲生家4代清成の弟北村二郎清則が築き、蒲生氏一族の北村氏が代々居城とした。天文24年(1555)正月、島津貴久軍が攻めたが、城主北村伯耆守清康の守りが固く撤退、弘治3年(1557)、蒲生城とともに落城した。

始郷《あいきょう》

勝海舟の書

吉田 茂子

明治10年(1877)、7ヶ月余りに及んだ西南戦争に、当時の帖佐郷からも約800名に近い人達が従軍し、200名近くが戦死しています。

鍋倉の総禅寺墓地入口には、戦没者慰霊の「招魂塔」と、「従軍者記念碑」が建立されています。「記念碑」には従軍者名が3面に刻まれ、正面には勝海舟揮毫による「思舊開素懐」の文字が刻まれています。

明治15年(1882)に勝海舟が熊本県に来た際、戦争に参加した帖佐郷の士族たちが訪ねて行き、総禅寺墓地へ建立する記念碑の題字として書いてもらったものです。

勝海舟安房書による「思舊開素懐」の原書は、始良市歴史民俗資料館に展示保管されています。

始良歴史ボランティア協会活動報告

3/1～2日(火・水)

蒲生史跡巡検ガイド(企画部)

鹿児島大学教育学部日本史研究室(14名)

編集後記

平成27年度は、「第30回国民文化祭かごしま」が開催され、始良市でも史跡巡りや民俗芸能などがあり、県内外から大勢の参加者がありました。

私ども歴史ボランティア協会では史跡巡りガイドのお手伝いをし、通常の活動は控えさせて頂きました。

次年度は本来の活動に戻り、皆様方に楽しんでもらえるガイドを実施していきたいと思っております。

来年度もよろしくお願いたします。

私ども始良歴史ボランティア協会は、皆様方からのガイド要請をお待ちしております。